

第 37 回日本病院薬剤師会近畿学術大会（ポスター発表）

演題分類：2 病棟薬剤業務

演題：嚥下困難な悪性神経膠腫患者における、テモゾロミドの経管投与方法の検討

○大城里紗、若林よう子、河合飛佳、有賀千温、白土枝里子、鹿島彩絵、結城沙英子、植木彩、馬場奈津美、坂井良美、前原大輔、土井本和久、福田朝恵、瀬川和子、垣尾尚美、國東ゆかり

（兵庫県立加古川医療センター 薬剤部）

【目的】悪性神経膠腫治療において、テモゾロミドが内服困難な患者に対して点滴静注が選択される。しかし、内服可能であれば入院ではなく、外来で治療を継続することができ、薬品費を抑えることができるため、患者の負担は軽減される。内服困難であっても患者や医療従事者、介助者が安全にテモゾロミドの投与が行えるよう経管投与の手順を検討したので投与結果とともに報告する。

【方法】簡易懸濁の可否は、メーカーからの情報提供及び経管投与ハンドブック第 2 版、懸濁後の安定性は薬学雑誌 129(3)2009 を参考にした。曝露を防ぐため、直接シリンジ内で溶解させる懸濁法を選択した。院内の水道水の pH は 6.5 であったため水道水を選択した。看護師が曝露なく作業が行えるように、簡易懸濁の手順について情報提供を行った。

【結果】テモゾロミドは懸濁開始から注入完了までの時間が 30 分未満であった。簡易懸濁し経管投与を行い 5 日間の内服を完遂した。患者や医療従事者への曝露や薬剤注入後の逆流による誤嚥等は発生しなかった。

【考察】テモゾロミドは酸性溶液中で安定性が保たれるため、溶解時にりんごジュースを用いた文献があるが、ジュースに含まれる成分での安定性が不明との報告もある。また、水道水中で経時的にテモゾロミドの残存率が低下するという報告があるが、賦形剤やカプセルのゼラチンにより pH が低下すること、懸濁から投与終了までの所要時間が 30 分以内と短時間であったことから、今回は水道水で妥当であると考えた。

【結論】嚥下困難な患者に対し、テモゾロミドを安全・簡易に投与するために工夫を要した。カプセル内服困難な患者に対して安全に投与を行い、医療従事者の薬剤曝露を抑えることができたのは事前に手順を整備したことが大きい。これらの手順を活用し、医療従事者への有効な情報提供をしっかりと行うことが重要である。

761/800 文字

演題募集期間：2015 年 7 月 15 日（水）～8 月 20 日（木）11：00